

2.1.4 過去の評価結果に対するフォローアップ状況

ここでは、前回の経済協力評価報告書（2004年度版）に掲載された外務省の評価結果に対する主なフォローアップ状況について紹介します。

外務省では、評価から得られた提言に対し、外務省経済協力局内に設置されているODA評価内部検討会議において対応策を協議・決定し、評価の結果をフォローアップしています。提言の中には直ちに対応できるものもあれば、十分な議論・検討が必要な提言もありますが、いずれもODAの改善に向け貴重な指摘となっています。

前回の経済協力評価報告書では、国別評価、重点課題別評価、セクター別評価、スキーム別評価などの結果が報告されました。

前回の評価報告書（2004年度版）に掲載された評価案件

国別評価：インドネシア、インド、ヨルダン、パキスタン

重点課題別評価：沖縄感染症対策イニシアティブ（IDI）中間評価

セクター別評価：パプアニューギニア・インフラ整備分野の支援評価、

モロッコ水資源開発分野協力評価、ガーナ教育分野評価、

セネガル環境分野協力評価、ボリビア基礎生活分野協力評価

スキーム別評価：国際緊急援助隊評価、文化無償の評価

これらの評価では、主に（１）重点分野及び横断的テーマの設定、（２）他ドナー・国際機関・NGOとの連携強化、（３）モニタリング・評価体制の強化、（４）省庁間の壁を越えたオールジャパンの感染症対策支援体制の構築、といった提言があげられており、これを受け外務省では以下のようなフォローアップを実施しています。

（１）重点分野・横断的テーマ及び目標体系図の設定

わが国の援助額が減少傾向にある中で、重点分野及び横断的テーマを明確にし、「選択と集中」の考えに基づいたメリハリのある援助を行うべきとの提言がありました。また、政策の概念や戦略を明確にし、政策の確実な実施と援助の効率化を促すため、目標体系図を設定すべきとの提言がインド国別評価、パキスタン国別評価においてなされました。

外務省では、このような提言を受け、対パキスタン国別援助計画（平成17年2月に策定）において、提言で指摘された重点分野・分野横断的イシューを設定した、援助目標、援助戦略の方向性、重点課題、重点分野を整理した目標体系図を導入しました。同様に、対インドネシア国別援助計画（平成16

年11月策定)においても、重点分野と開発課題を整理した体系図を導入しており、その他現在策定中の国別援助計画においても、目標体系図の導入を検討しています。

(2) 他ドナー・国際機関・NGOとの連携

他ドナー、国際機関やNGOなど、他の援助実施主体との連携を強化し、より効果的な援助の実施を図るべきとの指摘がインドネシア国別評価、パキスタン国別評価、ヨルダン国別評価、沖縄感染症対策イニシアティブ中間評価等においてなされました。

現在外務省では、新しいODA大綱で打ち出された「現地機能の強化」の方針のもと、現地ODAタスクフォースを中心に、NGOとの意見交換、セクター別のドナー会合に参加するなど、積極的に他ドナー、国際機関、NGOとの緊密な連携、情報交換、協議の強化を図っています。

(3) モニタリング・評価体制の強化

援助の効果的、効率的な実施を促すためにも、国別援助計画の実施状況のモニタリングや、評価システムを構築すべきとの提言がインド国別評価及びパキスタン国別評価においてなされました。

上記のような提言に対し、外務省では国別援助計画の策定・見直しに合わせて評価を行ってきており、新たに策定された対パキスタン国別援助計画では、援助実施上の留意点として、現地ODAタスクフォースが援助計画の実施状況をレビューし、その結果を援助計画の見直しの際に行う国別評価の重要なインプットとすると明示されています。

(4) 省庁間の壁を越えたオールジャパンの感染症対策支援体制の構築

わが国の感染症対策について、限りあるODAを有効に実施し世界に効果的に広報するためには、所轄官庁の壁を越えたオールジャパンの感染症対策支援体制を構築すべきとの提言が沖縄感染症対策イニシアティブ中間評価においてなされました。

外務省では、このような提言を受け、感染症対策に向けオールジャパンとしての効果的な対応を行うべく、外務省を始めとする関係諸機関内の一層の連携を図っています。その一環として、2005年7月に開催されたアジア太平洋地域エイズ国際会議において、外務省・JICA・JBIC共同で、オールジャパンとしてのエイズ対策の取組を示したパネルを出展し、内外の保健医療関係者に広報しているほか、保健援助に関する外務省と厚生労働省、文部科学省の定期懇談会を開催し、感染症対策についても連携・協力を図っています。